



小伊藤亜希子(教授)

1 メッセージ

居住環境学は、生活する場を計画し研究学問ですから、大学での勉強だけでなく、いろいろな生活体験を生かすことができます。ぜひこの学科で学びながら、たくさんの体験をし、自分のしたいこと、得意なことを見つけてください。

2 研究テーマ

家族のかたちやライフスタイルは時代とともに変化しています。男女の役割の変化や子どもの遊びと地域生活に着目して、人々の普通の暮らしの有り様から、求められる住空間、地域空間について研究しています。

<最近の研究室の主なテーマ>

- 子どもの居住環境
放課後の子どもの遊びと移動の自由性
学童保育の施設環境
- 家族と住み方と住空間
多様化する家族と住まい
地方移住とライフスタイル
親子近居と生活共同化
高経年郊外団地の住宅更新と住み方
- 伝統住宅の住み方
大阪長屋新規入居者の住み方
大阪長屋の温熱環境、音環境と住み方

3 担当科目

住生活論(学部)
設計製図2・4(学部)
学外セミナー1(学部)
住生活学特論(大学院)
住居計画学演習(大学院)ほか

4 主な著書

『学童保育研究の課題と展望』明誠書林、共著：日本学童保育学会編(2021)

『いきている長屋 大阪市大モデルの構築』大阪公立大学出版会、共著(2013)日本建築学会著作賞2018受賞

『歴史的街区は再生できるのか -京都・町家の変遷から協調空間の提言へ』かもがわ出版、共著(2012)

『子どもが育つ住環境をつくる』かもがわ出版、共著(2009)

『子どもを育む住まい方』大阪公立大学共同出版会、共著(2006)

5 主な論文

- 学童保育の設備・施設～家庭に代わる生活の場を保障する空間課題, 学童保育研究, NO24 (2024)
- 集合住宅における子ども独立後の夫婦世帯にみる住み方の共用傾向, 日本建築学会計画系論文集, 797号 (2022)
- 放課後活動施設における障害児と健常児に交流が生まれる空間 -児童いき放課後事業、大阪市クラブを例として-, 学童保育, 第9巻 (2019)
- 新規入居者による大阪近代長屋の住み方 -オープンナガヤ大阪のネットワークを通じた事例から-, 日本建築学会計画系論文集, 83巻750号 (2018)
- 学童保育における民家等活用プロセスと施設整備の実態, 日本建築学会計画系論文集, 83巻750号 (2018)
- マンションリフォームにみる住戸空間の共用化傾向, 日本建築学会計画系論文集, 82巻731号 (2016)
- 住まいにおける妻の専用スペース要求と住み方 -いくつかの専門グループに注目して-, 日本建築学会計画系論文集, 79巻706号 (2014)

6 研究室活動

現在、土井脩史研究室と合同でゼミを運営しています。両ゼミ合わせて、博士課程の院生3名、修士課程の院生6名、学部生(3+4年生)13名、研究生1名、また客員研究員3名もいっしょに、それぞれ自分の研究テーマを持ちながら、いくつかのチームをつくり、調査研究に励んでいます。(2024.2時点)

子どもの遊びのフィールド調査に出かけたり、長屋やマンションを訪問して住み方調査をしたり、アンケートをつくって集計したりと、調査方法はいろいろですが、お互いにノウハウを伝授したり手伝ったりしながら進めています。



子どもの放課後施設の観察調査中

